

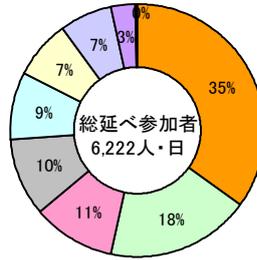
『スマート通勤おかやま2008』(10月27日～31日実施)の結果概要

●参加状況

参加企業数	101社
参加登録者数	1,535人

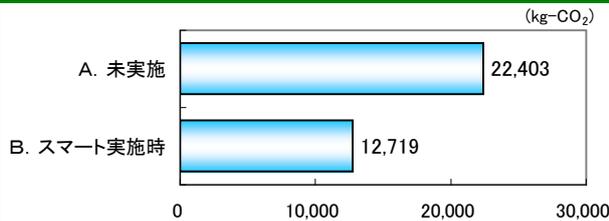
101の事業所、1,535人の方が本取り組みに参加されました。

●変容交通手段の状況



自動車からの変容手段として、自転車への転換が約35%を占める。

●期間中の「CO₂」削減量と削減率



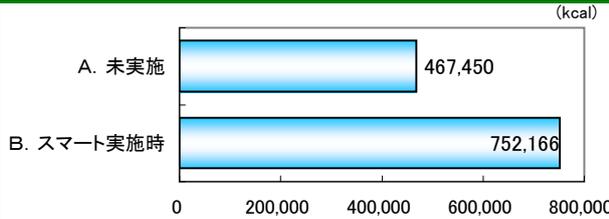
C.削減量 (A-B)	9,684 kg-CO ₂
D.削減率 (C/A)	43.2 %

(1人当たり約6kg-CO₂)

約10t-co₂は、約700本のスギの木が1年間に吸収するCO₂吸収量に相当するものです。

※スギの木は、樹齢50年程度のもを想定。杉の木1本が1年間に約14kg≦出典：「地球温暖化のための緑の吸収源対策」環境省林野庁>の二酸化炭素を吸収するとして試算

●期間中の「通勤時消費カロリー」増加量と増加率

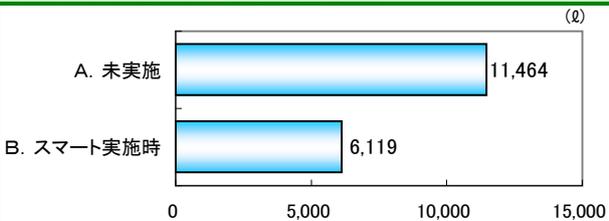


C.増加量 (B-A)	284,716 kcal
D.増加率 (C/A)	60.9 %

(1人当たり約185kcal)

約185kcalは、ジョギングを約30分間実施した場合の消費エネルギーに相当するものです。

●期間中の「ガソリン」削減量と削減率



C.削減量 (A-B)	5,345 ℓ
D.削減率 (C/A)	46.6 %

(1人当たり約3.5リットル)

備考) 「A. 未実施」は、参加者のみなさんが通勤時に全てマイカーを利用した場合の数値です。

CO₂排出量:「平成14年度国土交通白書」、「平成11年度全国道路交通センサス 一般交通量調査」(国土交通省)

カロリー消費量:第6次改定日本人の栄養所要量(厚生労働省)

(※カロリー消費量は、年齢42.5歳(岡山県平均)、体重を男性65kg・女性を55kgとして平均して計算しています。)

燃料消費量:「メーカー公表車種別燃料消費率」、「平成11年度全国道路交通センサス 一般交通量調査」(国土交通省)

【注意】

効果指標の数値には、参加報告したが行動変容の記録をとらない事業所分(345人)を含んでいる。

そのため、合計値には、これらの参加者に効果の平均値をかけて算出した数値を加算している。

【訂正】

上表の削減率の数値について、当初掲載していたものに間違いがありましたので訂正しています。

【本取り組みに参加された方の声】

●スマート通勤おかやまの実施について

- ・環境にとっても、健康にとっても良い取り組みだ。
- ・普段はなかなかできないが、このような取り組みがあるとやってみようという気になる。
- ・一部の人の取り組みに過ぎず、官民一体となって積極的に実施すべき。
- ・実施期間が短い。1ヶ月程度が良い。

●公共交通機関について

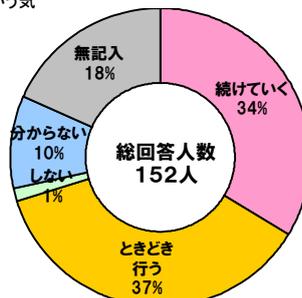
- ・公共交通機関の便が悪く、困難。
- ・公共交通体系を根本から考え直す必要がある。

●環境について

- ・環境問題を意識するようになった。

●健康について

- ・運動不足が気になっていたので良い機会となった。
- ・自転車通勤に変えて体力がついた。



約70%の人が今後もスマート通勤を行うと回答しています。

※「今後もスマート通勤おかやま2008で実施した交通行動を続けますか？」の質問に対して「続けていく」「ときどき行う」と回答した人の割合